



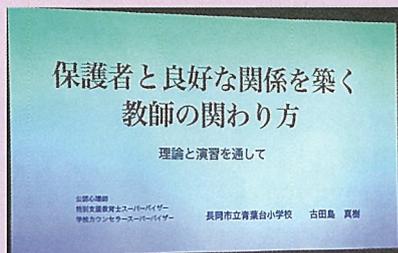
新潟教育会報

第101号 公益財団法人 新潟教育会
(新潟教育会館内)

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町590番地3号

TEL・FAX:025-222-2971 E-mail: jimu@kyouikukai.jp

新潟教育会の事業で生徒指導の学びを深める先生方



理事
熊倉 達也

「生徒指導提要」の改訂

令和4年12月、「生徒指導提要」が改訂されデジタルテキストで公開された。平成22年の刊行以来である。改訂された提要の特徴を3つ挙げる。まず、この10年余で「いじめ防止対策推進法(H25)」や「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(H28)」、「こども基本法(R4)」など、

法令が大きく変わった。そのため、第Ⅱ部の各トピックには、先ず、関連する法令や通知等がどうなっているかから書き起こしている。

特徴の二つ目は、多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導という新しい項目が設けられたことである。子供たちを内面的に理解することはもとより、それだけではなく環境面から理解していくことの大切さが強調されている。

三つ目は、生徒指導の構造を「2軸(時間軸) 3類(課題性の高さ) 4層(対象指導内容)」に整理したことである。全体像を示し、「いつ、誰に、どのような」指導を行うべきか明示された。その中で、日常的な教育活動を通じて全ての児童生徒に働きかけていく、基盤となる生徒指導を「発達支持的生徒指導」という言葉で表している。学習指導要領が大きく変わった今、子どもたちが自発的、主体的に成長発達していく過程を支えていくのが生徒指導だとする視点に立っていることがわかる。

生徒指導となると個別の課題対応に追われて徒労感を感じることがあるかもしれないが、新しい生徒指導提要は、現代的課題への対応はもとより、教育活動のあらゆる場面における手引きとして活用できるに違いない。教育の現場においては、その精神を汲み取り、その方法を抛り所としながら、目の前の児童生徒に即した「変幻自在で豊かな生徒指導」を展開していくことを期待している。

令和4年度特別支援教育

助成校だより

助成校

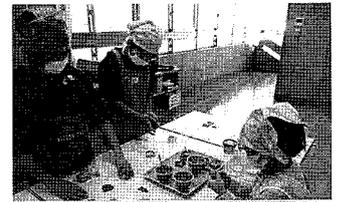
- 上越市立有田小学校
- 湯沢町立湯沢小学校
- 新発田市立御免町小学校
- 新潟市立立仏小学校
- 三条市立下田中学校
- 新潟市立新潟柳都中学校

豊かな人間性・社会性の育成

上越市立有田小学校
野田 晃

当校には、知的障害学級が3学級、情緒障害学級が2学級あります。また、通級指導教室は、発達障害2教室、言語障害1教室があります。わかる授業と自信が生まれる学級づくりを目指して、一人一人の児童に効果的な支援ができるように、個に応じた合理的配慮をしながら、指導方法等の工夫に取り組んでいます。また、教職員の情報交換を重視し、全校体制での指導や支援を行っています。

具体的には、授業において選択・決定する場面を多く設定し、自ら判断し行動できるよう促しています。また、友達とふれあう学習の場を重視することを通して、他人を思いやる気持ちや自律・自製の心を育てています。さらに、特別な支援が必要とする児童は、校内委員会において「個別の指導計画」を基に対応を協議し、その子の個性、その子のよさに着目して、全校体制でその子の特性に応じた支援を行い、豊かな人間性・社会性を育むことを目指しています。



クリスマス・クッキーづくり（自立活動）

経験を自信に変え いきいきと生活する姿を目指して

湯沢町立湯沢小学校
松本 清子

当校の特別支援学級は、知的障がい学級が3学級、自閉症・情緒障がい学級が1学級あり、25名の児童が在籍しています。

集団行動や環境の変化、コミュニケーションに課題のある児童が多いことから、経験の幅を広げることをねらいとして「わくわく集会」を学期に1、2回行っています。

季節のイベントと絡めた集会活動に、異学年グループでルールのある遊びや、みんなの前で話すゲームなどを取り入れています。初めは会場に入れなかった子もいましたが、回を重ねるごとにその場にいる時間が長くなったり、負けても泣かなくなったり、グループの仲間と一緒に行動できたりと、確実に経験値が上がり「できる」が増えた児童の様子が見られます。

ここでの経験が自身に変わり、今後の生活に生かせるよう、一人一人に寄り添った指導・支援に努めてまいります。



チームの力を合わせて！
クリスマス色取りゲーム

連携と自立を大切にした特別支援教育の実現

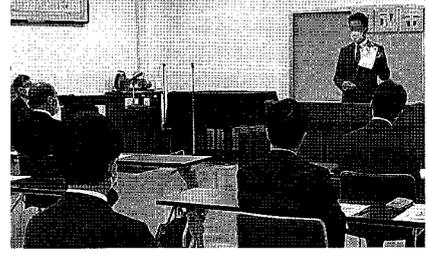
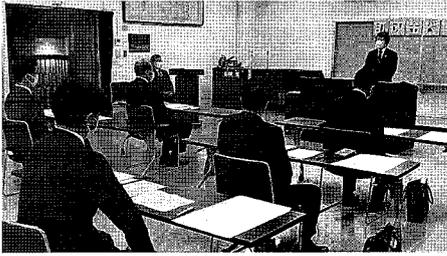
新発田市立御免町小学校
相澤 祐助

当校には、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、肢体不自由障害学級、難聴学級に計42名が在籍しています。特別支援教育におけるキーワードは『連携・自立』です。「子どもたちを適切に導く」という視点において、教諭、事務職、用務手等の職種における違いはありません。精一杯の愛情を注ぐ姿勢を全職員がもち、総力を挙げて、特別支援教育を推進しています。交流学級の担任は「自分のクラスの子ども」という意識で児童とかかわっています。放課後になると支援学級と交流学級の担任が連携し、児童の自立を目指して語り合っています。

当校の特別支援学級が大切にしているのは「自立活動」です。人とかかわりを大切に、そこで生じる個々の課題を解決できるように様々な単元や教材に工夫を凝らし、授業に臨んでいます。例えば事務職員の仕事の発注を受け、学校封筒を作り、届ける活動があります。あいさつや作業を学ぶだけでなく、人から認められ、愛される喜びを自己のエネルギーに変え、自立への一步を踏み出しています。



「封筒、いつもありがとう」



特別支援学級担任の負担軽減を目指して

新潟市立立仏小学校
滝澤 豊

立仏小学校は、新潟市西区にある全校児童314名の学校です。特別支援学級は、知的障がい学級が1学級、情緒障がい学級が2学級の合計3学級で編制しています。

今年度、新しく取り入れたのが日課表の工夫です。特別支援学級には複数学年の児童が在籍することから、3部複式や4部複式の学習状況になることがあります。多くの学年が混じる複式は、特別支援学級担任の大きな負担となります。この負担の解消をねらい、国語と算数の授業は、2学年以内の授業となるように、特別支援学級の授業を中心とした日課表の作成を全校体制で行っています。担任からは、「1時間の中でたくさんの学年の内容を教えなくて済むので助かります。」や「国語と算数の時間が、毎日同じ時間帯にあるので、子どもはリズムができ、見通しを持てるので楽なようです。」などの反応が出ています。

特別支援教育の充実を目指し、今後も取組を工夫していきます。



算数の学習に取り組む3年生と5年生の児童

職員や友達とのかかわりを重視した活動で 自己有用感を育む

三条市立下田中学校
杉田 沙紀子

下田中学校では、生徒の自己有用感を育むために、次の2点に重点的に取り組みました。

1つ目は、他者意識を重視した作業学習です。職員から再生封筒やメモ帳などの作成依頼、発注を受けることで、意欲的に活動できました。また、完成品を生徒が職員室に納品し直接「ありがとう」と声を掛けられる場面を設定したところ、以前に比べ丁寧に取り組む意欲につながりました。

2つ目は、互いの意見を出し合う自立活動です。また、その場面でのロールプレイを行いました。それにより、自分自身の意見を深め、正しい判断ができるようになり、学んだことを生活の中で生かせるようになってきました。

職員や友達とのかかわりを重視した活動を組むことで、自己有用感の高まりや次の活動意欲につながっています。今後もさらに工夫を重ね、取り組んでいきたいと思えます。



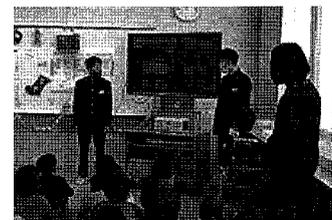
再生封筒を職員室に納品する様子

地元「^{しもまち}下町」に根ざした学びから 地域社会で生きる大人へ

新潟市立新潟柳都中学校
竹田 辰生

当校は、一人一人に寄り添い、日々実現を図れるよう、全職員でインクルーシブ教育の実現に取り組んでいます。特別支援学級は知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級、そして、今年度新たに病弱・身体虚弱学級が加わり、それぞれ1学級ずつ計12名が在籍しています。また、新潟大学医歯学総合病院内設置の「あさひ学級」(院内学級)を担当しています。病弱・身体虚弱学級を開設したことを契機に、年度初めと途中で2度、OJTにより特別支援教育に関して教職員の力量向上に取り組んでいます。

本年度は特別支援学級の生徒自作のしおりを舟江図書館などの公共施設に届けたり、学区1小1中のよさを生かし生徒が自ら編集した動画で中学校の様子を紹介したりするなど、地域や小学校との交流を深めています。しも町という環境を生かして共生し、地域を学び、地域で学び、地域に貢献する生徒の育成を目指しています。



クリスマス会での学校紹介の様子

数字で見る令和4年度実績

	会館利用回数	教師力アップ講座	教育アドバイザー派遣回数
令和元年度	241回 100%	57人 100%	43回 100%
令和2年度	162回 67.2%	24人 42.1%	26回 60.5%
令和3年度	281回 116.6%	54人 94.7%	60回 139.5%
令和4年度	272回 112.9%	32人 56.1%	54回 125.6%

* 上段は2月末時点での数値。下段は元年度を100%とした時の割合(%)

昨年度と同様に今年度も、各事業において、コロナ禍が始まる前の元年度の状況以上の活動が推進されています。その中で教師力アップ講座は、周年事業との兼ね合いの中で日程上の不都合がありました。来年度は、日程に配慮した計画を進めています。

当会事業の見直し検討会の設置

令和5年度は、50周年事業を終えての新たな歩みの開始年となります。当会では、“今”を改革に向けた大切な時と捉え、当会運営並びに事業の見直しを進めています。とりわけ、事業においては、学校現場の教職員並びに退職された皆様、そして、県民の皆様が、負担なく、進んで参加したいと思える事業に、さらには、厳しい財政状況の中でも持続可能な事業に改善していくための検討を重ねてきました。

今年度最後の理事会において、令和5年度の運営方針と事業内容を決定します。6月に発行する令和5年度の当会「要覧」、「会報」、研究所「所報」等にて、皆様にお伝えします。今後の新潟教育会の運営と事業にご期待ください。

教育研究論文 入選者決定!

令和3・4年度 教育研究論文の最終審査を行い、9人の入選者を決定しました。算数科と体育科が2人、社会科、理科、音楽科、外国語科、道徳科が1人となりました。3月に『教育研究論文集 第26集』を発行します。

宮田亮平先生一門 作品展 祝 日本芸術院新会員選出

周年事業でご講演いただいた宮田先生の作品展が下記により開催されますのでご案内いたします。
会名：雪梁舎設立30周年記念「MIYATA展」
会期：令和5年5月20日(土)～7月17日(月)
会場：雪梁舎美術館(新潟市西区山田451 TEL 025-377-1888)

あとがき

With コロナへの方向転換が進みつつある中で、学校現場でも教育活動の正常化が進んでいます。当会におきましても、一層の学校支援に取り組み組んでいきます。

